

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「石巻市放課後子ども教室推進事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

市内小学校区において、公共施設等を活用し、子供たちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子供たちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の取組を実施することにより、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、平成25年度に和渚小学校区をモデル地区として開始した。

内容

令和7年度は市内8小学校区で実施し、次のような活動状況であった。(令和8年2月末現在)

教室名	実施回数	主な活動内容	平均参加児童数	平均参加スタッフ数
和小っ子クラブ	16回	シャボン玉、グランドゴルフ、コース別活動等	18.9人	8.7人
放課後子ども教室Bremen	21回	スポーツ遊び、けん玉、七夕飾り、自然体験等	15.8人	4.2人
チャレンジキッズinへびた	10回	科学実験教室、ポッチャ、百人一首、逃走中等	19.2人	3.8人
チャレンジキッズinこうよう	10回	(チャレンジキッズinへびたと同様)	10.1人	5.7人
にっか	9回	アート、伝承遊び、おかし作り、実験遊び等	21.4人	2.7人
おがつっこらぶ	59回	水曜:運動教室、木曜:学びっこタイム等	13.5人	2.3人
オークス	16回	サッカー、野球、ドッジボール、バドミントン等	57.9人	5.3人
あつまれ須江っ子	8回	ドッジビー、ビニールバレー、集団遊び等	55.2人	5.6人

ポイント

- ①教育委員会が認める地域の団体や住民の協力を得て運営している。
- ②コーディネーターが中心となってプログラムを作成し、活動支援員等の役割を明確にして活動している。
- ③運営側の特技や経験、つながりを基にして、または、児童の希望を参考にして、様々なプログラムを実施している。

成果

- ・参加者アンケートの結果を見ると、「地域の人と楽しく活動できた」と回答した児童が89%、「放課後子ども教室に参加してよかった」と回答した児童が93%であり、地域住民の参画を得て実施している本事業のよさがうかがえた。
- ・学校では経験できないことに取り組めることを楽しみにしている児童が多く、様々な体験や交流が児童の自主性や社会性を育むことにつながった。
- ・市内小学校での放課後の時間の有効な活用と、地域での放課後子ども教室への関心が高まり、次年度は新たに4校で開設することが決まった。

今後の方向性

- ・各教室のよりよい事業運営を実現するために、コーディネーターの情報交換の場を設定する。
- ・各小学校での取組状況を地域に発信して理解を図るとともに、地域ボランティアの確保に努める。
- ・放課後児童クラブと連携した取組を実施していくために、事業内容の工夫と改善を図っていく。



放課後子ども教室Bremen
(七夕飾り作り)



チャレンジキッズinこうよう
(科学教室)



にっか
(地域の会社を知ろう)



あつまれ須江っ子
(ドッジビー)

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「塩竈市放課後子供教室」(宮城県塩竈市)

取組の概要や経緯

令和3年度からのコミュニティ・スクール導入に合わせて、市内小学校の子供たちの安心・安全な居場所づくりを目的に、放課後子供教室を開設し、令和4年度、市内6校に開設した。

放課後子供教室支援員の他に、体験活動の講師、学習支援、見守りなどにおいて、地域の方々の参画を得ながら活動の充実を図っていく。

内容

子供たちは、地域の方々や保護者などの学習支援や見守りの支援により、宿題や自主学習に取り組む。

また、毎月一度、地域で活躍する方や団体等の協力により、運動、創作、遊びなどの体験活動を実施する。

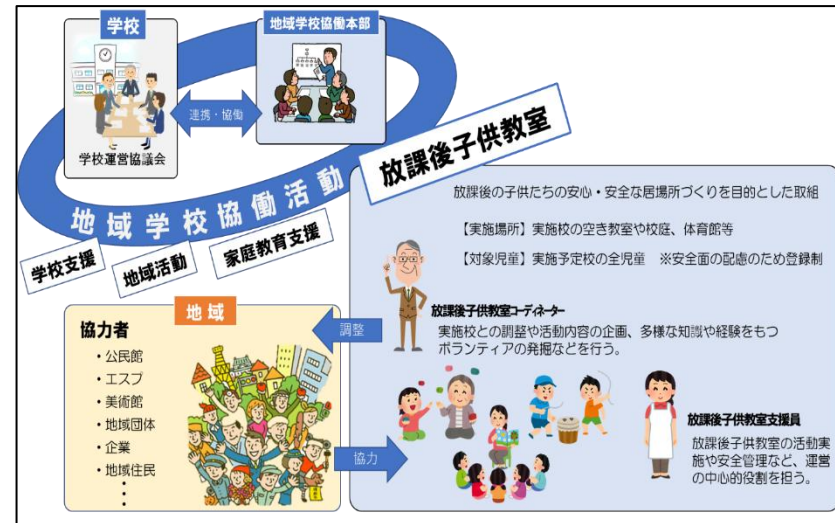
地域住民との交流活動等の機会により、地域で子供たちを育む環境を充実させ、子供たちの学びを支えていく。

ポイント

- 宿題をするだけでなく、遊びの時間では読み聞かせやクイズ、折り紙、遊び等に取り組んでいる。
- 活動内容は、子供自身が選択する。
- 放課後子供教室コーディネーターが体験活動の企画をしている。

成果

- ・みんなで学ぶ環境と雰囲気があり、同級生同士や異年齢による教え合いがある。
- ・遊びの時間では、各自が興味のあるものに取り組むことができ、子供たちの主体性が育まれている。
- ・コーディネーターや支援員が地域住民の参画を促すことで、協力者が増えるだけでなく、地域住民の生きがいの場となっている。
- ・体験活動へ市民サークルが講師として参加。活動の披露の場となるとともに地域住民との交流の場となっている。



今後の方向性

- ・各校の学校運営協議会や地域学校協働本部との連携
- ・地域コーディネーターによる幅広い地域住民、団体などの参画の調整
- ・学習支援ボランティアの確保

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域の力でつくる子どもたちの放課後」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

平成17年度に斎川小学校区で「地域子ども教室推進事業」として行ったのを始まりに、児童クラブへの移行、小学校の統廃合を経て、令和7年度は市内3小学校区で実施している。地域住民がコーディネーター、スタッフとして活躍している。



内容

市内子ども教室を総括する「コーディネーター」を配置し、活動を充実させている。平成30年度からは、**児童クラブ連携型、校内交流型**を実施している。連携型の放課後子ども教室は閉校した学校の行事として行われていた伝統文化体験を、統合した小学校の子ども教室で体験活動として行っている。校内交流型の教室は、学習支援、運動遊び「ムーブメント」、絵本の読み聞かせ、造形活動、など様々なプログラムを実施している。

近年、子どもたちの体験の場が減っている状況のなか、感染対策を図り、各教室が地域の特色や実情に合わせて、特色あるプログラムを実施することで、子どもたちの放課後の居場所づくりを行っている。



ポイント

- ①各教室ごとに**地域の伝統文化や人材を活かし**、特色あるプログラムを実施した。
- ②スタッフ会議を実施し、スタッフ同士の**感染対策と危機・安全管理対策**の共有を図った。



成果

- ・特色あるプログラムを体験することで、家庭内での子どもと保護者のコミュニケーションにつながった。
- ・安全管理、子どもの発達などの課題を話し合い、共通理解を図ることで子どもたちだけでなくスタッフにとっても安心・安全に活動できる場がつけられた。
- ・地域の活性化や地域住民の生きがいに繋げることができた。



今後の方向性

- ・継続的に活動を行うためにスタッフや学校、児童クラブ、保護者との連携・協力体制を強化していく。
- ・新たなスタッフの育成や今後の子ども教室の在り方を検討していく。
- ・子どもたちにとって安心、安全な居場所づくりを心掛ける。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「できることを、できるときに、できるところから、みんなで育もう栗原っ子」(宮城県栗原市)

取組の概要や経緯

○放課後の小学校を活用し、子供たちの居場所を設けるとともに、地域の方々の協力を得て、地域に根ざした多様な体験活動や地域住民との交流活動の機会を提供することで、子供が自ら学ぶ力を身に付け、地域で子供を育む環境を支援している。

内容

○地域人材を活用して、多様な体験活動を実施している。特に、こちらから与えるだけの支援ではなく、子供達が自ら試行錯誤をして主体的に取り組める内容とした。

ポイント

- 今年度は栗原市家庭教育支援チームに協力をいただき、6月から12月にかけて、鶯沢小学校を会場に、「ニュースポーツ体験」「作って遊ぼう体験」を実施した。
- 授業時間とスクールバスとの関係から、1・2年生だけの児童の参加となったが、合計6回の実施では、のべ151人が参加してくれた。
- 担当の社会教育指導員が、事前の準備と直接指導を行い、家庭教育支援チーム員がサポートするというスタイルで実施し子どもたちの多くの笑顔を引き出すことができた。
- 実施後には、作品等を持ち帰り、家族との会話が楽しめるように配慮した。

成果

- 参加した子供達からは、全員が「とても楽しかった」と感想を寄せてくれた。大変好評で、参加した1年生17名は「来年度も絶対参加する」と意欲満々であった。
- 持ち帰った工作物や作り方の紙をもとに、保護者や兄弟と物づくりをしたとの声も聞かれ、家族のふれあいにも寄与することができた。

今後の方向性

○令和8年度は、栗原市内に公募して、希望校を募った。その結果、希望した3校で、合計7回の子ども教室を開催する予定にしている。「ニュースポーツ体験」「作って遊ぼう体験」のそれぞれの希望する種目等を確認しながら、楽しめる空間と時間を創っていく。



ストラックアウト



わりばしばちんこ



モルック

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「大河原町放課後子供教室推進事業」(宮城県大河原町)

取組の概要や経緯

○放課後や週末等に子供たちの安全安心な活動拠点を設け、地域の方の参画を得て、子供たちの学習やスポーツ、体験活動、地域住民との交流活動等を実施することにより、子供たちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する事業である。本町では平成17年度から実施している。

内容

町内3小学校区で実施

○大河原小学校放課後子供教室(小学1～3年生) 25回開催

学習支援、講師による特別教室

○大河原南小学校放課後子供教室(小学1～6年生) 66回開催

ACP活動、伝統文化継承活動、野外体験、クリスマスツリー作り、茶道体験、百人一首体験ほか

○金ヶ瀬小学校放課後子供教室(小学1～3年生) 35回開催

ハンドベル演奏、和太鼓演奏、科学実験教室、七夕飾り作り、百人一首体験、餅つき大会ほか



ポイント

- ①町内すべての小学校区で実施されており、スタッフも様々な特技を持った人材が揃っている。
- ②各教室のスタッフが集まり、情報交換や事業の反省を行うスタッフ会議等を開催し、各教室でのプログラムの充実を図っている。
- ③年度末に児童・保護者を対象にアンケートを実施し、その結果をスタッフ、講師、各小学校に提出・共有し、連携してよりよい運営に努めている。

成果

○大河原小学校放課後子供教室(ほうかご寺子屋)

宿題や自主学習等の学習支援を実施するほか、レクリエーション活動や科学実験教室、創作活動を行っている。学習習慣の定着や学校への行き渋りが軽減されたと好評を得ている。

○大河原南小学校放課後子供教室

NPO法人キハト会に業務委託し、幅広い体験活動や交流活動を行っている。また、エコ活動(ごみ拾い・分別)や防災学習も実施している。

○金ヶ瀬放課後子供教室

地域の人材を活かしたプログラムや県南中核病院への七夕飾りの寄贈等をとおし、地域と結びついた活動を実施している。

今後の方向性

- 多彩な体験型プログラムや野外活動の充実を図る。
- スタッフの高齢化や固定化が進んでおり、コーディネーターを含めたスタッフの後任育成や選考、運営体制の見直しを検討していく必要がある。
- 参加児童や保護者アンケートの回答を基に、それぞれの小学校区で行っている特色を活かし、内容の見直しや充実を図っていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」(学校を核とした地域力強化プラン) (学び支援コーディネーター等配置事業)の取組事例

「亘理町放課後子ども教室『放課後楽校』」(宮城県亘理町)

取組の概要や経緯

放課後に小学校等の公共施設を活用し、スポーツや文化芸術活動をとおり、児童が異年齢集団や地域住民との交流することにより、児童の好奇心や自主性、協調性の育成を図るとともに、地域の活性化及び地域の教育力の向上を高めることを目的とする。

町生涯学習課が主催となり、各教室にコーディネーターを中心とした地区協議委員会を設け、企画・運営を実施。震災の影響で数年間休止してしたが、令和元年度から現在の5教室を継続実施。



内容

教室数:5カ所

開催回数:原則15回(感染症等により、開催休止あり)

参加児童数:30名程度/教室

活動内容:スポーツ(ドッチビー等)・制作(リース等)・文化(伝統芸能・書道等)

活動体制:コーディネーター2名を中心に、スタッフで活動内容を企画・運営を行う。

年複数回、コーディネーター会議を実施し、各教室管の情報交換を実施。

活動終了後、参加児童・保護者・スタッフにアンケートを実施。協働本部会議にて評価検討を行う。



ポイント

- ①コーディネーターを調整役として、学校と地域住民、行政、まちづくり協議会が連携し、主体的な協働活動を実施。
- ②コーディネーター会議を実施することで、各地区の情報共有を図り、事業の向上を図る。
- ③参加児童に多様な体験・交流ができるよう、毎回工夫を凝らした多様なプログラムを計画
- ④様々な趣味や特技を有している地域住民の自己実現の場の提供

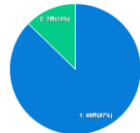
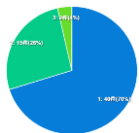


成果

学校や家庭では体験できない活動・交流を実施したことから、参加児童において、高い満足感が見られ、他学年児童や地域人材との人間関係が広がる様子も伺えた。

また、コーディネーターやスタッフとして参加する地域人材の多くが、事業の趣旨を理解し、円滑な運営に向けて活動することができ、児童育成や地域活性化に向けて意識の向上が伺えた。

R7児童満足度(96%) R7保護者満足度(100%) R7スタッフ満足度(100%)



今後の方向性

学校や行政、関係機関との連携を一層充実させるとともに、協働本部にて評価検討を実施し、より効果的な事業実施を図る。

児童館等との連携を一層充実させ、各教室の実情に応じた合同活動の実施を重ね、一体的運用の推進を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「まつしま放課後子供教室」(宮城県 松島町)

取組の概要や経緯

- ・放課後等の児童の安全・安心な活動拠点を確保し児童の健全育成を推進するとともに地域の活性化を図ることを目的に実施。
- ・「体験遊び」「学習支援」を実施。児童・保護者のニーズを踏まえ、令和6年度より「体験遊び」に比重を置いて活動している。

内容

- ・町内三つの小学校で、各校を会場に月曜日に開催(各校年間8回設定)。また、2回の3校合同イベントを実施した。
- ・宿題や自主勉強を行う「学習支援」と、地域の人材や教育資源、町の関係団体、「みやぎ教育応援団」等を活用した「体験遊び」を実施。活動を通じて、児童の多様な体験活動機会を確保し、松島の地域・文化への愛着を育むことができたほか、共生社会・環境問題・防災などの社会課題について楽しみながら関心を持つきっかけとなるよう工夫した。

ポイント

- ①「体験遊び」では「仲間づくり」「松島湾の生き物を知ろう」「よさこい体験」「科学実験・工作」「パラスポーツ体験」を行った。また、夏休み中に実施した「歴史体験」では、火起こし・拓本体験等の活動を通じて楽しみながら地域の歴史や地域人材に親しむことができるよう工夫した。
- ②「防災デイキャンプ」は地域学校協働本部会議での議論に端を発し、企画段階から本部推進委員や放課後子供教室スタッフが意見を出し合って開催した。当日はジュニア・リーダーも一緒に活動することで学校・学年の垣根を超えた交流のなか、災害を正しく知り、身近なもので・子供達ができる防災について体験・グループワークを行うことができた。

成果

- ・年間計画策定の段階から活動スタッフに关与してもらうことで、「自分事」としてスタッフが活動に参加する機運が醸成された。
- ・「体験遊び」に積極的に外部講師を活用したことにより、持続可能な事業運営体制になった。また、活動内容が多様化したことにより登録者の参加率が向上し(昨年度比+4.7%)、参加児童の満足度が高い活動を行うことができた。
- ・アンケート調査では全ての保護者が「放課後子供教室に参加することで子供たちの安心・安全な居場所が確保された」と回答した。



仲間づくり



科学実験・工作



パラスポーツ体験



松島湾の生き物を知ろう



歴史体験(合同)



防災デイキャンプ(合同)

今後の方向性

- ・昨年度に引き続き登録児童の保護者がスタッフとして加わったほか、部活動が休みのジュニア・リーダーが活動に参加することで、運営体制が確保された。引き続き広報紙等による周知や保護者及びジュニア・リーダーOBOGなどへの声かけを行い、より多くの地域住民が参画していける体制を整えていく。
- ・児童のニーズを捉えつつ、地域人材や外部講師、地域資源の活用を図りながらより魅力的で充実した体験活動の機会確保を図っていく。

	合計
実施回数	24回 (前年比+1回)
延べ参加者数	544人 (前年比+31人)
各回平均参加者数	22.6人 (前年比+0.9人)
各回平均参加率	79.3% (前年比+4.7%)
令和7年度実績(登録者数:88人)	